

2024 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養ケアプロセス研修会

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】

管理栄養士として対象者への栄養ケアにどのようなアプローチが必要なのかを考えるために、短期集中的にグループディスカッション等をしながら、広い視野をもって患者さんの栄養管理計画を作り、どのようなアウトカムを期待して PDCA を回していくのかを深く検討できるようになることを目的とした研修会を行った。今年度もベーシックトレーニングと分野別ワークショップの2部形式で開催した。

【方法】

対 象： 医療・福祉分野で栄養管理を行っている実務者（管理栄養士）

日 時： 2025 年 3 月 1 日（土）10：00 ～ 16：00

場 所： 名古屋外国語大学名駅キャンパス（サテライト）および オンライン（Zoom）

1 部 10：00～12：00 ベーシックトレーニング（対面およびオンライン）

「今日からわかるがんと栄養ーこれからの人も・いまさら聞けない人もー」

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 加藤 匠 先生

2 部 14：00～16：00 分野別ワークショップ

①急性期（#ICU #術後 #輸液 #がん #NST）（対面）

「はじめて学ぶ画像所見のミカター栄養管理への活用方法ー」

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 林 衛 先生

蒲郡市民病院 藤掛満直 先生

②慢性期（#栄養指導（DM・CKD 等）#リハビリテーション栄養 #給食管理）（対面）

「カーボカウント、CGM を用いた栄養指導 ～糖尿病患者さんが楽しく食生活を送るために～」

愛知医科大学病院 原 なおり 先生

名駅東クリニック 橋本由香梨 先生

③高齢者（#施設 #フレイル #嚥下障害 #認知症 #サルコペニア #重度要介護）（対面）

「認知症高齢者の食支援 ～食事介助で摂食嚥下機能のアセスメント力を高めよう～」

社会福祉法人英楽会 楓林花の里 小島 三枝 先生

【結果・まとめ】

今回も2部制に分けて行った。午前中のベーシックトレーニングには対面約80名（うちスタッフ3名）、オンライン10名が参加した。午後はどの分野の対面でのみの開催で、急性期分野50名、慢性期分野20名、高齢者分野20名が参加した。過去最大人数の参加者であった。

終了後のアンケートでは、午前、午後のどちらも、受講前と比べて参加当初の目的達成度、理解度が受講後は上がっていた。よって、全体を通して非常に有意義な研修であったと考える。